

## 派遣海賊対処行動水上部隊がソマリア沖・アデン湾に向け出港 ～ 第54次隊護衛艦「たかなみ」出国行事の様相 ～

ソマリア沖・アデン湾に赴く第54次派遣海賊対処行動水上部隊の出国行事が6月6日(土)に神奈川県横須賀市において開催され、護衛艦「たかなみ」が出港した。

青木崇艦長が指揮を執る「たかなみ」には、第54次ソマリア周辺海域派遣捜査隊を編成する水口亮隊長以下海上保安官8名を含め、約200名が乗り組み、現在活動中の第53次隊の「ゆうだち」と交代する。同艦は本任務に4度目の派遣となる。なお、同艦は中東地域における情報収集活動も兼務する。

式典では、高石景太郎統合作戦司令部幕僚長が、「本年2月末以降の中東情勢悪化は国際社会に深刻な影響を及ぼしています。また、アデン湾では海賊事案は昨年を上回る状況です。わが国の不断の海賊対処行動に国際社会から高い信頼と評価を受けています。諸官の任務は国際海域における法の支配と秩序の維持、海上交通路の安全を担保する極めて重要なものです。自衛官としての自覚と誇りを胸に、持てる力をいかんなく発揮し、任務を完遂することを強く期待します。」と俵千城統合作戦司令官の訓辞を代読した。

続いて、大町克士自衛艦隊司令官が、「現在の中東情勢は2月末に生じたイランをめぐる戦闘の影響が続いており、いまだ多くの日本関係船舶がペルシャ湾にあり、ホルムズ海峡の安全は十分に確保されておらず今後の情勢は予断を許しません。また、本年の海賊事案発生件数は、大きく増加傾向でありハイジャック事案が複数生起しています。緊張を強いる情勢ですがアデン湾はアジアと欧州を結ぶ海上交通の要衝であり、海賊対処行動・情報収集活動はわが国の海上交通の安全確保に直結するのみならず、自由で開かれたインド太平洋の実現に寄与するもので、その成果は国内外から高い評価と多くの期待が寄せられています。任務の完遂、無事の帰国、そして元気な姿で再会することを祈念します。」と訓示した。

また、彼末浩明海上保安監が、「国際海上物流の要衝であるソマリア沖・アデン湾におけるわが国の海賊対処行動は長きにわたり、日本のみならずあらゆる国籍の船舶および乗組員の安全を確保してきました。この取り組みは、国内外から高い評価を受けています。ソマリア沖・アデン湾では海賊等事案が増加傾向であり、中東情勢も不安定な中、これらの任務は緊張感を強いられ想像を絶する苦労があると思いますが、優れた能力と旺盛な士気を以って、最高のパフォーマンスを発揮してくれるものと確信しています。」と挨拶した。

平尾真二常務理事が、当協会を代表して「商船の安全航海へのご支援を宜しく申し上げます！」と任務に赴く乗員に想いを伝えた。

最後に、青木艦長が、「第54次派遣海賊対処行動水上部隊護衛艦「たかなみ」出港します。」と報告し、乗員一同が意気揚々と乗艦した。

当協会からは平尾常務理事のほか、飯野海運 落岩和彦海務部長、川崎汽船 三好康之安全運航チーム長、商船三井 小倉伸介執行役員、日本郵船 増富聡司海務グループ長代理が、国際船員労務協会からは綾清隆会長、池田良一事務局長らが、全日本海員組合からは池谷義之国際局長らが出席した。

参加者一同は、好天の岸壁から、海賊対処行動に赴く「たかなみ」の安全航海と乗員の無事を祈りつつ、その雄姿を見送った。

## 出国行事



平尾常務理事、青木艦長、綾会長



統合作戦司令官の訓辞を代読する高石幕僚長



訓示する大町自衛艦隊司令官



挨拶する彼末海上保安監



出港報告する青木艦長



想いを伝える平尾常務理事



式典に臨む「たかなみ」乗員一同



参加した海運関係者一同



出港する「たかなみ」